



GAMA

月桃の花



朝霧 舞

(第一回主演作品)

知花 章

平良 進

中里 友豪

平良 とみ

吉田 妙子

玉木 初枝

ウエ子 雄大

川平 慈英

國村 隼

沖田 浩之

一九四五年—夏、沖縄。
洞窟(ガマ)の前には
まだ散りかねている
白い月桃の花があつた……

主題歌「月桃」

作詞/作曲 海勢頭 豊
歌 朝霧 舞
国吉 なおみ
国吉 昭子

監督:大澤 豊 原案/脚本:嶋 津与志 企画/脚本:橋 祐典 撮影監督:岡崎 宏三 監督補:松本 泰生

製作/音楽:海勢頭 豊 美術:山崎 秀満 録音:瀬川 徹夫 上映プロデューサー:佐藤 雅之

製作:こぶしプロダクション/映画GAMA-月桃の花を成功させる会

製作協力:沖縄県/糸満市/沖縄戦記録フィルム1フィート運動の会

配給:ジー・ジー・エス

戦後50年目にして初めての
『沖縄県民映画』

GAMA
月桃の花

これは全国民必見の映画であり
また、世界中の人々にうったえる
沖縄からのメッセージ!!

かいせつ

沖縄の『平和の礎』を映画化

1995年の6月23日。慰霊の日。沖縄本島南部、摩文仁の平和祈念公園で『平和の礎』の建立除幕式が行われました。

沖縄戦で亡くなった23万余の人々の名前が、国籍を問わず、黒い石板に刻銘されて、波のように海に向かって立ち並んでいます。

物言わぬ『礎』が、総ての戦争を美化する言葉を拒絶して、吹き上げてくる岬の潮騒に、無念の思いを突き付けているようです。

沖縄戦終結50年記念事業として、大田昌秀知事が中心となり完成した『平和の礎』は平和を願う沖縄人の心として、広く世界の人々に感銘を与え、刻まれた戦死者一人ひとりの名前から、各々のドラマが語られ、訪れる人々の涙を誘っております。

この『平和の礎』の建設が進められた中、沖縄の文化人、演劇人、映画人、そして一部の政財界人など、戦争を体験した人々の間から、沖縄の心を映像化しようという話もりあがりました。あの太平洋戦争を無にしないために、沖縄県民だからこそ伝えていかなくはならない沖縄戦の実相…。

一人の平凡な母親の目で捉えた、日本唯一の地上戦。その姿を通し世界へ平和のメッセージとして発信する作品となるよう、願いをこめて製作されたのが、この映画です。

ものがたり

語れない恐ろしい秘密

宮里房(72)は海辺の村で琉舞を教えながら幼稚園を経営している現役の園長である。同世代の沖縄アンマーの例にもれず地獄の戦場を体験した一人である。十数名の家族や親兄弟を次々と砲爆撃に奪われ、最後に追い詰められた摩文仁岬の洞窟から母と娘だけが奇跡的に生還してきた。敵は米軍だけではなかった。兵隊と避難民が雑居した洞窟の中では、いまわしい惨劇が繰り返られていた。だが、彼女はこれまであの洞窟の中で目撃した真相をだれにも語ったことがない。語るに語れない恐ろしい秘密が房の胸の中には畳み込まれている…。



月桃

『GAMA』とは

『GAMA』(ガマ)とは、沖縄で『鐘乳洞』を意味する言葉です。

沖縄は、隆起珊瑚礁で形成された石灰岩質の島々であるために、鐘乳洞は島の至る所に点在していました。戦前は風葬の場所として知られる程度で、普段は人の出入りする所ではありませんでしたが、沖縄戦のさなかには、県民の抵抗の最後の砦として機能しました。多くの避難民を抱えたガマは、軍人による強奪や虐殺といった惨劇の舞台となり、米軍の馬乗り攻撃の標的となる一方、人々の尊い命を守る役割も果たしました。戦火が止んだ時、喜屋武半島のガマからはおよそ8万人の避難民が這い出てきたのです。

現在の沖縄県民、特に戦争体験者にとって、ガマという言葉は、瞬時に沖縄戦の悲劇を想起させると共に、ガマによって守り抜いた命の尊さをも思い起こさせてくれるのです。

月桃(げっとう)とは、沖縄の島々の山野に自生する、ショウガ科の多年草です。薬用植物で沖縄方言ではサンニンと呼ばれています。モチを包んで蒸すための葉に利用され、各家庭で重宝された月桃が、花を咲かす季節が、丁度、沖縄戦のあった4月から盛夏にかけて重なります。

生き残った多くの人が戦火の中で見かけた月桃は…それは祈りの花でもあるのです。

(1996年 日本映画/カラー/ビスタサイズ/110分)